

国立大学法人電気通信大学産学官連携センター

遠隔育児支援ロボット「ChiCaRo」

遠隔育児支援ロボット「ChiCaRo」は、国立大学法人電気通信大学人工知能先端研究センター (<http://aix.uec.ac.jp/>) の阿部 香澄 特別研究員、長井 隆行 特任教授らが発明し、特許出願を行った「ビデオチャットロボットシステム、手渡し遊び制御方法および手渡し遊び制御プログラム」(特願 2016-053021)、「チャットシステム、管理装置、端末装置、宛先選択支援方法および宛先選択支援プログラム」(特願 2016-237624)、「遠隔遊び支援システム、心的状態・性格推定システム、遊び推定システム、方法およびプログラム」(特願 2016-225250) を製品化したものである。

ワンオペ育児や核家族化による育児負担は年々深刻となっており、また、女性の社会進出に伴って増加中の共働き世帯では、短時間で相当量の家事育児をこなさなければならず、育児負担の軽減が社会的な課題となっている。

遠隔育児支援ロボット「ChiCaRo」は、上述の課題を解決するために提案されたもので、言語が未発達な乳幼児でも使うことができる本ロボット技術により、初めて遠隔保育が可能となった。遠隔育児支援ロボット「ChiCaRo」を利用することで、乳幼児が集中しやすく、長期的に飽きにくいコミュニケーションが可能である。

本製品は、電通大発ベンチャー「株式会社 ChiCaRo」において製品化されており、電気通信大学は、株式会社 ChiCaRo に対して、これら発明等についてのライセンスを行っている。

詳細情報のアクセス先：

株式会社 ChiCaRo

E-Mail：info@chicaro.co.jp URL：<https://www.chicaro.co.jp/>

〒182-8585 東京都調布市調布ヶ丘一丁目5番地1

国立大学法人電気通信大学内

国立大学法人電気通信大学 産学官連携センター

〒182-8585 東京都調布市調布ヶ丘一丁目5番地1

TEL 042-443-5138 FAX 042-443-5108

ChiCaRo

子育てのあり方を変える、
家庭用遠隔保育ロボット“チカロ”

子育て世帯の悩み

乳幼児を育てる家庭の約8割が核家族。
ひとりで家事育児をこなす親のストレスは深刻です。
子育て世帯の皆さまの悩みを聞いてみました。



家事をする間、少しでも
子どもの相手をして欲しい。

遠方に住む孫の顔を見たい
けれど、まだ小さいので電話で
のコミュニケーションは難しい。



専任先から
子どもとテレビ電話。
会話が聴かない...



～ChiCaRoは子育て2.0へ～ コンセプトは「離れていても大家族」

ChiCaRoは、遠くからでも小さな子どもとふれあえる保育ロボット。
家庭にChiCaRoがあれば、遠方に住むおじいちゃん・おばあちゃん
にも、「少し子どもと遊んでおいて」とお願いすることができます。
従来のロボットに比べて、「人に近い保育」ができるから、親も子も
祖父母も、家族みんながハッピーに！子育ての頼れる味方です。



ChiCaRoは、人に近い保育を実現

世界初の遠隔保育ロボットChiCaRoは、
最長で約20分楽しいコミュニケーションを実現。

遠くに住んでいても、
核家族の子育てを
サポート。

言葉が十分に発達し
ていない乳幼児でも
聞きやすい工夫。

ロボット対子どもで
はなく、祖父母と
子どものぬくもりの
あるふれあいを実現。

ChiCaRoの特徴：

- 子どもが親しみやすい「人型ロボット」を介したビデオチャット。
- あそび機能の搭載で、おしゃべり前の乳幼児も夢中。
- 自動ふり向き機能で、子どもの動きをしっかりとキャッチ。
- 遠隔操作で、おいかっこなどの身体あそびも実現。
- 倒れにくく丸みを帯びた形状だから子供が使っても安心。



ビデオチャット



自動ふり向き
機能



遠隔操作で
身体あそび



ハンドを使った
どうぞあそび



安全な形状

タッチセンサー
カメラ
赤外線センサー
タッチパネル
ハンド



今後も発育段階
に応じたあそびや
便利な機能を
どんどん追加して
いく予定だよ！

図：遠隔育児支援ロボット「ChiCaRo」によるイメージの情報の提示例